

平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査
第 1 回地域検討会（福井県） 議事概要(案)

日時：平成 19 年 8 月 30 日（木）
19:00～21:00

場所：坂井市三国総合支所 4 階会議室

議 事

開会（19:00）

- 1．環境省あいさつ
- 2．資料の確認
- 3．検討員の紹介〔資料 1〕
- 4．座長選任
- 5．議事

平成 19 年度調査の全体計画(案)に関する説明〔資料 2〕

概況調査計画(案)に関する説明〔資料 3〕

クリーンアップ調査及びフォローアップ調査計画(案)に関する説明〔資料 4〕

その他の調査計画(案)に関する説明〔資料 5〕

全体を通じての質疑応答

- 6．その他連絡事項

閉会（21:00）

配布資料

資料 1 平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（福井県）検討員名簿

資料 2 平成 19 年度調査の全体計画（案）

資料 3 概況調査計画（案）

資料 4 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査計画（案）

資料 5 その他の調査計画（案）

参考資料 1 対策の方向性（目標設定）の検討

参考資料 2 クリーンアップ調査 共通調査作業手順書

平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（福井県）
第 1 回地域検討会 出席者名簿

（敬称略）

検討員（五十音順、敬称略）	
井 黒 虎子男	米ヶ脇自治会 会長
（代理：波多野 勲 米ヶ脇自治会 副会長）	
大 竹 臣 哉	福井県立大学生物資源学部 教授
勝 又 久 雄	海上保安庁第八管区海上保安本部 福井海上保安署 署長
坂野上 芳 行	東尋坊観光協会 会長
阪 本 周 一	エコネイチャー 彩 みくに 会長
下 影 務	安島自治会 会長
新 宅 隆	梶自治会 会長
鈴 木 隆 史	越前松島水族館 館長
玉 置 文 志	国土交通省近畿地方整備局 福井河川国道事務所 副所長
難 波 英 夫	崎自治会 会長
前 田 孝 夫	坂井市生活環境部環境衛生課 課長
増 永 裕	福井県安全環境部廃棄物対策課 課長
松 井 康 彦	国土交通省北陸地方整備局 敦賀港湾事務所 工務課長
矢 尾 良 雄	福井県土木部砂防海岸課 課長
矢 口 眞 治	雄島漁業協同組合 組合長
オブザーバー（所属機関名）	
福井県安全環境部廃棄物対策課リサイクル推進室	
福井県土木部砂防海岸課	
坂井市生活環境部環境衛生課	
坂井市三国総合支所産業課	
環境省 地球環境局	
小 沼 信 之	環境保全対策課 係長
草 刈 耕 一	環境省中部地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課 廃棄物対策等調査官
事務局：日本エヌ・ユー・エス(株)	
井 川 周 三	地球環境ユニット
松 土 康 雄	生物科学ユニット
高 橋 理	地球環境ユニット
中 澤 和 子	地球環境ユニット

議題1 平成19年度調査の全体計画について(資料-2)

質問・コメント等はなし。

議題2 概況調査計画について(資料-3)

- 1) 航空機の調査は11月までやるのか。また、福井県全域を対象とするのか。
福井県全域を対象として、8月25日に撮影済みである。
- 2) 河川が発生源となるゴミについて、どのように調査されるのか。
河川に関する情報として、流域面積などを調べる予定だが、流下するゴミの量などは難しいと考えている。
- 3) 河川管理の関係で、ゴミの処分費などわかるものがある。
活用させていただく。

議題3 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査計画について(資料-4)

- 1) 10m×10mの調査枠内を2m×2mに全部区分けして分類するのか。
2m×2mの枠は汀線から陸に向けて1列だけ設定する。残りの2m枠を置かない部分も調査は行うので、全体の汀線方向の幅としては10mの幅を調査するということになる。
- 2) 冬季には、ゴミ運搬のための船も岸に近づけないなど、調査が実施できないことがあるのではないか。
冬季、特に2月の3回目の調査が海況上は一番厳しいため、好天を待って3月にずれ込む可能性がある。作業員の安全を第一に考え、調査の実施が可能かどうか判断したい。
- 3) 各自治会では独自に浜の清掃活動を行っている。これから調査が実施されることを考えると、今後はどのようなタイミングで清掃活動を行えばいいか。
各自治会の清掃活動の情報をいただきながら、こちらも調査の日程を組んでいきたい。特に独自調査は清掃活動と同時に実施できるように調整したい。また、人員の募集についても是非、御協力いただきたい。
- 4) 海岸に打ち上げられた海藻にはプラスチックまたは発泡スチロールが含まれている。それらをすべて回収するのか。
今回の調査では、すべて回収することを考えている。ただし、あまりにも量が多い場合には浜から搬出できない場合もあるので、実際に全て回収できるかどうか、浜の状況を見て検討したい。
- 5) 自治会の年間事業の中に、海岸清掃が年2回ある。安島地区では9月22日に実施する。その時に同時にやるのであればそれでも良いが。
既にある地元の活動とうまく連動しながら調査を進めていきたい。
- 6) 枠の設定位置は、2年間の調査で同じということか。その場合、何かしらの表示をしておくということか。
2年間で6回すべて同じ場所で行うが、位置はGPS等を用いて把握し、浜にマークをつけることはしない。
- 7) 解析方法として、ゴミの漂着状況を平均波高とか平均風速のデータと比較するという図があるが、ゴミが打ち上げられるという現象は平均的な値よりも、最大波高や最大風力が関係していると考えられるので、そのような観点で解析を進めてはどうか。
解析の参考にしたい。
- 8) 海浜の清掃ボランティアであるが、窓口が全く把握できず、ある日突然クリーンアップするということが往々にしてある。そのような情報があれば事前に連絡するようにしたい。

是非お願いしたい。

- 9) 基本的には海底ゴミは対象外か。
海底ゴミは対象としていない。
- 10) 海域の(漂流している)ゴミは対象にしないのか。
漂流しているゴミは対象としていない。浜に漂着したゴミだけを対象とする。

議題4 その他の調査計画について(資料-5)

- 1) 本地域検討会での検討事項として、「その他の調査」の調査結果も含まれるのか。
このような補足的な調査も並行して進めることをご紹介させていただいた。基本的には、「その他の調査」の結果は、該当するモデル地域の地域検討会でご報告し、ご意見をいただくことを考えている。
- 2) 「微細なプラスチック破片による生態系への影響調査」にはどのように取り組むのか。
文献調査と専門家への聞き取り調査により実施する予定である。
- 3) 「定点観測」の写真撮影を、水族館の前でもやっても良い。
定点観測については、阪本検討員、鈴木検討員にお願いすることにする。
- 4) 「その他の調査」で、「国内向け及び海外向け広報活動の検討」となっているが、特に今回の調査をやっているということを海外に広く広報すべきだと思う。そうすれば、ある程度、海外におけるゴミの削減に繋がるのではという気はする。
日本・中国・韓国・ロシアを中心とした北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)において、漂流・漂着ゴミに関するプロジェクトが昨年からスタートしている。それに関連するワークショップ等で、今回の調査の成果を公表していきたい。
- 5) プラスチック容器の中に入っている液体の分析も行う予定か。
ペットボトルの内容物の調査については、今のところは考えてはいない。

議題5 全体を通じての質疑応答

- 1) 今回の調査では、回収方法を検討するだけであって、回収自体は行わないのか。
回収方法を検討し、実際に2ヶ月に一度、回収も実施して、その後どれだけゴミが漂着するかをモニタリングしていく。
- 2) この検討会は公開、あるいはプレス発表をするのか。また、このような調査をゴミ減量に向けての啓発として使っていくべきであろう。
検討会自体は非公開で行うが、資料と議事の概要については公開する予定である。
- 3) 地域検討会を公開にすることによって、結果として意見が出なくなってしまうということもある。次回以降どうするかについて、事務局で検討してほしい。
検討する。
- 4) 福井県の立場からも、やはり非常にいい調査と思うので、できるだけ積極的にPRしてほしい。
検討する。
- 5) 注射針など医療系の漂着ゴミに対する安全対策がどのようになっているのか。
医療系廃棄物に対しては、医療系廃棄物の取扱いマニュアルを整備して作業員に周知する。危険物についても取扱いマニュアルを作成する。
- 6) 調査では、どのような大きさのゴミまで回収するのか。発泡スチロールの小さい粒1つたりとも全部回収するのか。
調査枠中のゴミについては、1cm以上を目安としてゴミを回収・分別する。独自調査の際にも、基本的には1cm以上を目安としている。
- 7) 東尋坊では、30mの断崖の上にゴミがあり、今のところ回収はできていない。東尋坊は特に

観光資源として大きいので、なるべく早く回収方法を示してほしい。

本調査の中で検討していきたい。ただし、作業員の安全を第一に考え調査を進める。

8) 第1回目の調査ではどこの浜を対象として行うのか。

陸側から入りやすい浜を優先的に対象とする予定である。